

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271800284	
法人名	社会福祉法人 ゆりの木会 ゆりの木苑	
事業所名	ゆりの木苑 グループホーム	
所在地	千葉県東金市家徳752-12	
自己評価作成日	令和4年 10月16日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.jp/12/index.php">http://www.kaiakensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和4年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆりの木苑には他にも色々な施設があるが、グループホームにしかできない事として、生活リハビリと行事に力を入れている。入所となっても自分の役割があり、行事を行う事、計画する事で生き活きと生活出来るように支援している。多職種連携もアピール出来る点だと思う。提携病院の力を借りる事で、医師 看護師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 薬剤師が月に1回は関わる機会がありご利用者もご家族も安心して生活が出来ると思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームゆりの木苑」は、認知症対応型デイサービスが併設していると共に、同法人の特別養護老人ホーム・ケアハウス・デイサービスセンター等が隣接しており、相互の連携を通して、入居者のニーズに合わせたサービス提供を行っている。現在コロナ禍の為、地域との交流や外出行事等は積極的に行っていないが、散歩やドライブ、近隣の神社への初詣やコンビニエンスストアの移動販売での買い物、「東金ストーリーズ」という認知症啓発行事への参加等を行っており、入居者の生活の活性化に繋げている。医療機関とは急変時・緊急時の連携・情報交換が行えるよう対策を講じており、重度化・終末期においての適切な支援の実施に向け、協力体制が整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別にグループホームでは今年度、「それぞれの我が家」というスローガンを掲げ運営推進会議の他、地域行事への参加、法人開催での行事への参加の声掛け等を行うことで地域密着型事業としての役割りを常に念頭においた活動を行っている。	「夢と感動・安心と楽しさ・尊厳をもち住み慣れた地域でのその人らしい生活の支援」と言う施設理念を掲げており、法人のホームページやパンフレット等に記載している。新人研修や現任研修・会議等を通じて、全職員に理念の共有を図っていると共に、日頃から理念の唱和を行い、理念に基づいた支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在住んでいる家徳地区の行事への参加やゴミ拾いなどにもご参加頂いている。	近隣住民と挨拶を交わす関係が築かれていると共に、町内会への加入や地域のゴミ拾いに参加しており、地域との繋がりを大切にしている。現在コロナ禍の為、地域交流の機会は減少しているが、今年の10月に行われた「東金ストーリーズ」という認知症啓発の行事に、入居者と共に参加している。市役所、社会福祉協議会、高齢者、障害者、児童の参加に加え、高校生のプラスバンドも行われ、世代間交流の機会にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの開催、担い手養成講座の開催など、市のサポートを受けながら社会福祉法人として何が出来るか常に検討しながら地域への発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂戴した意見をもとに、会議後直ちに施設長を含めた話し合いを行い、内容の改善に努め、その結果については、家族懇談会などで公表している。(コロナ禍で懇談会は中止)	運営推進会議は、市職員・地域包括支援センター職員・家族を構成員として年6回開催しており、活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進とサービスの質の向上に努めている。現在コロナ禍の為、書面における会議も実施しながら、定期的な開催を継続している。	

【千葉県】ゆりの木苑 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各月で行われている運営推進会議へのご参加を頂き、家族懇談会へのご参加お頂戴している。その他、講座の開催などについても常にご協力を頂きながら関係の構築を図らせて頂いている。	市とは、業務相談や業務報告を通して、日頃から連携を図っている。今年10月に行われた「東金ストーリー」においても、市と協力しながら行事開催に繋げている。その他、東金市地域密着型サービス連絡会を通して、市や地域事業者との意見・情報交換等を行い、協力関係を構築しているが、現在コロナ禍の為、令和元年10月以降連絡会の開催は見合されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回行われている。全職員が正しい理解の下、身体拘束を廃止す視点を持ちご利用者への支援を行っている。	身体拘束排除における指針を整備していると共に、3カ月に1回検討委員会が開催されている。また、身体拘束排除の研修も実施されており、意義を全職員で理解した上で、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会や、3カ月に一回の担当者会議にて、ケアの在り方支援方法などについての見直しを行っている。 ハラスメント委員会が発足され虐待防止に向けてケアの見直しを発信する場がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講義を開催し、全職員が受講できるようシフトの調整を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入院などで退床などが見られた際や、入所中であっても、今後の生活におけるご家族のご意向などを伺いながら十分な説明を行うよう努め、なんでも相談して頂けるような関係性の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頂いた意見は口頭での内容であっても「ご家族からのご要望」の用紙へ記載し、苑内職員での情報共有に努め、必要時には迅速に改善に努め、その内容については家族会で、公表しつつ改善内容の報告もしている。	家族の来訪時や電話連絡・運営推進会議等を通じて、意見や要望等を確認している。挙げた意見や要望においては、会議や連絡ノート等を活用し、全職員で検討し、適切な支援に繋げている。他にも、季刊誌「すこやか」や「家族レター」に行事開催時の写真掲載や入居者の日々の様子を綴り、施設での生活や活動状況を詳しく伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回の個人面談を設けている。また、業務等に関する内容などについては、グループホーム会議、その他、アンケートなどを行いつつ職員の意見を吸い上げられるよう努めている。	定期的にグループホーム会議・運営会議を開催すると共に、個人面談・アンケートを実施しており、職員からの意見・要望を確認する機会を設けている。挙げた意見や要望については、会議で検討の上、運営に反映できるように努めており、職員一人ひとりが意欲的に業務に取り込めるよう環境を整備している。	職員アンケートより、業務内容に対して職員数が不足しており、個々の負担が大きいとの声が挙げられている。難しいとは思われますが、人員に合わせた業務内容の見直しを図り、人材の安定化に努めていただくことを望みます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員意見の収集に努め、職員が向上心を持って働けるような環境となるよう、役職者での会議などで話し合いを行い実行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課や技術の評価を行うことで、力量の確認をした上で、外部研修への参加の勧めや、その他、浅井ヘルスケアグループ合同で行う各研修会への参加ができるようシフト調整等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浅井ヘルスケアグループで、病院や老健との交流ができる研修会や、他施設実習の実施や地域密着連絡会へ参加することで他施設の見学などもさせて頂き、参加者の意見を自施設に活かせるよう内容の報告と必要時の改善を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と入所前の面談を行いつつ、ご家族との話し合いの場を設け、ご本人からは聞き取りの行えない情報の収集なども併せ行いながら、関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも入所前の面談を行い、その中でお困りごとやこれからのことについて密に話し合いを行い関係を築いていけるよう努力している。		

【千葉県】ゆりの木苑 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	浅井病院の協力もあり、多くの専門職の協力やサービスを受けられる環境が整っていることもあり、グループホームでの支援以外であってもサービスの公表や、必要物品、環境整備におけるサービスなどについても提示たうえでのご検討を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームのコンセプトである「家庭」という原点や、コミュニケーションや認知症ケアの在り方について学ぶ機会を持ち、支援の在り方、関係性の在り方について知識として持ちつつ支援に携わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会での発信や担当者会議への参加への依頼を都度行い、出席できない場合の意見の収集に努めると共に、チームの一員として支援の輪に履いて頂けるよう、密な連絡などを担当者が中心に行いながら関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へも入所時の聴き取りや、アンケートなどを行いつつ、関係が途切れぬよう、支援している。馴染みの店にいけるよう検討している。	家族等との面会や地域のドライブを通して、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。また、訪問理美容やコンビニエンスストアの訪問販売等の地域の社会資源を活用し、地域との繋がりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団での行事や日々の生活の中で、日々のご利用者の心身の状態に合わせた座席の変更や、お声掛けをさせて頂きながら、サポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される際は、ご家族の意見などが聞ける環境を整え、その後もいつでもご連絡を頂けるようお言葉かけをさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議開催の際は、ご本人の意向の確認を担当者が中心となり実施している。また、日々の記録をもとに、ご本人の意向や希望の確認とそれに対する支援の在り方についてご本人にとって最良なケアを目指し努力している。	入所前に、本人・家族から意向や生活歴・身体状況等を確認すると共に、医療機関や居宅支援事業所から情報を収集している。また、定期的なアセスメント実施や会議・申し送りを通して、入居者一人ひとりの意向や情報の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や聞き取りで行った調査表などをもとに、計画作成担当者の作成するケアプランへの反映や、担当者が作成するアセスメントへ反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の在り方について、日ごろより学習の機会を持ち、その上で日々、心身状態等に関する記録を行い、そこで得た情報や記録をもとに24時間軸に沿った個別支援計画を立案している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週1回記録をもとに看護師による心身状態におけるチェックと、担当者による心身変化の確認とケアに対する気づきの確認を行っている。1か月に1回のモニタリングをもとに、6か月1回の担当者会議を行い個別支援計画をPDCAサイクルで活用している。	日頃から、個人シートを活用して情報の収集及び共有に努めていると共に、本人や家族の意向を確認した上で担当者会議を行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価・見直しを行っており、現状に即した支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録(絆・パソコンでの記録と総合記録シート)の記載と、その評価と確認、個別支援計画、ケアプランへの反映を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師の協力体制の他、内科医、精神科医、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、マッサージ師など専門職による支援や、その方に必要とされるその他サービスの検討を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の持っている地域資源を含め、近隣でご本人が活躍できる場への参加や、楽しいと思える場への参加など、市からの情報なども活かしつつ活用している。(自治体での行事の参加)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の医師が月1回来苑して下さるようになったことで、更に医療的サービスの向上が図れている。その他、専門医の受診や長年診て頂いている医師への受診などは、通院の支援をご家族の協力を頂きながら定期行われている。	定期的に内科の往診が行われていると共に、希望のかかりつけ医への受診も支援している。また、定期的に歯科往診も行われており、適切な医療支援に努めている。協力病院やかかりつけ医とは緊急時に適切な対応が得られるよう、協力体制が整備されている。併設のデイサービスの看護職員の連携の下健康管理が行われており、入居者や家族の安心に繋がっている。その他、同法人の老人保健施設の作業療法士や地域の医療機関の理学療法士によるリハビリも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、特記事項については看護師への報告を行い、1回/週は担当の看護師は、日々の記録を確認し、必要な場合は医療的な介入も検討しており、密な情報共有の上で、連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	浅井病院への入院の場合では週1回行われるカンファレンスに参加させて頂き、情報共有を図り、その他の病院への入院の場合も地域連携室等、各病院の専門職と退院調整における話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、文章での提示と口頭説明を十分に行ったうえで、ご家族の意向の確認及び、同意を得ている。実際に重度化、医療依存度が高まった場合などは主治医の説明を確認した上で、その後における支援の在り方について話し合う場も設けている。	重度化・終末期においては、契約時に延命希望確認書・意向確認書を交わしている。重度化した場合や終末期においては、関係機関と密な連携を図ると共に、会議等で入居者・家族の意向や変化に応じた対処方法の確認や検討を行い、安心で納得が得られる支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルの確認と、手に届く場所での保管。及び年に1回の救命講習は全職員が受講できるよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3カ月1回の防災委員会での話し合いや、マニュアルの見直し、更新、その他、連絡網の随時更新、その他、連絡の取り方におけるシュミレーションを行っている。その他、定期的に防災訓練を行っている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報機等の消防設備を設置すると共に、年4回、災害時に備えた自主訓練を実施している。訓練では火災における夜間想定、水害・地震想定等が実施されており、それぞれにおいての対応方法を身につけている。法人の特別養護老人ホームが災害時の避難所になっており、地域との相互協力体制の構築にも努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に関しては身体拘束廃止の研修で学び、理解を深め、スピーチロックについても職員同士で気をつけあっている。	接遇においては、全職員が個人尊重を意識し、入居者一人ひとりに合った言葉かけや対応を行っている。個人情報については、契約時に個人ファイルの取扱目的・保管場所・写真掲載についての承認を得ている。また、日頃のコミュニケーションでは、個人名の呼びかけや会話内容に注意しながら、プライバシー保護に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できることとできない部分の見極めを行いながら、自立支援の観点から自ら行って頂くことを原点とし、支援を検討している。また関わりの中で得た情報は記録として残し、希望を聞き逃さぬよう注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	暮らしのシート(個別支援計画)をもとに、一人ひとりに合った生活の実現に向けて努力している。その日の過ごし方によっては、意向の確認を行いつつ実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容などは、個人に合わせしっかりと時間を設け、必要な方は洗面台前に椅子を設けるなどし、楽しんで頂いている。また、希望がある方はご家族と協力し化粧品なども揃え、楽しめる環境を整えている。		



【千葉県】ゆりの木苑 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査や、委託業者による残食調査等を実施している。またグループホームでも嗜好の確認を日々行いながら、好みに沿った食事提供を行い、毎食の食事準備や片付けはご利用者で行うことが日課になっている。	食事は旬の食材や入居者の嗜好に配慮した食事提供が行われている。また、季節に応じた行事食の実施・手作りおやつ・出前も行われていると共に、はまちの解体ショー等も行われており、食の楽しみを支援している。食事の準備や片付けについては、入居者と職員が共同で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500ccを目安とし、その他個人の疾病に合わせ水分量や、食事量を設定し、日々の記録を行い、必要時は医師への報告や相談を行っている。また、自力摂取を続けられるよう、声掛けや福祉用具の使用も個別に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施と、月一回歯科医師、衛生士による口腔内の状態確認を定期的に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を徹底して行った上で、排泄パターンを把握し、その記録をもとに、声掛け時間のお見直しや、使用アイテム、必要物品の準備などを検討している。	排泄チェックリスト表や記録シート等を活用しながら個々の排泄パターンを把握した上で、声掛けやトイレ誘導を行い、自立に向けた支援に努めている。また、水分摂取の励行・乳製品の活用・日常的な運動の実施等を通じて、便秘予防に努めている。必要に応じて、看護職員や医師に相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄の記録を残した上で、ご家族の協力のもと、個人で必要な食材等による準備をし、提供することや、水分量の確保、活動等を意識的に実施しながら、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ、ご本人の意向に沿えるよう、また、時間変更などが余儀なくされた場合は、謝罪の上、了承を頂きながら実施するよう努めている。また、浴室の環境を観葉植物などで飾り、楽しんで頂ける工夫を行っている。	定期的に入浴を実施していると共に、状況に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴を実施する等、入居者の清潔保持に努めている。併設施設の機械浴槽を使用する事も可能となっており、安全で快適に入浴できるような設備が整っている。	

【千葉県】ゆりの木苑 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の心身の状態に合わせて仮眠を都度検討したり、就寝時間や起床時間は日々検討している。また、夜間の安眠を確保する観点から日中の活動や日光浴なども意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別支援計画はいつでも閲覧できるようにし、その中に内服薬の情報も記載している。変更時は迅速に変更を行っている。服薬方法についても個別支援計画に盛り込み適切な支援を心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業療法士にも相談しつつ、一人ひとりが楽しめ、そして役割りを見出せるような支援内容を決定し、それに沿った支援の実施については記録を残すこととし、日々実施されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、希望に沿った支援を行えるよう努力している。また、自宅などの一時帰宅や親戚の家などの訪問については家族の協力を頂きながら実現している。ドライブや買い物については、できればその日、行けない場合も日にちをずらし実施できるよう努力している。	日頃から、散歩やドライブ等を通して、戸外での楽しみを支援している。現在コロナ禍の為、外出行事は見合わせているが、近隣の神社への初詣やコンビニエンスストアの移動販売での買い物等を行っている。その他、敷地内での花壇の手入れや外気浴の実施していると共に、施設内でのレクリエーションを通して、入居者の生活の活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方でご家族の同意を得られた方に関しては、ご本人でお金を所有しておられる方もおり、買い物の際はご自身での支払いなどに使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際はいつでも電話を掛けれる環境を整えている。また、お正月などはご家族へ年賀状などの作成を行ったりと、ご本人とご家族との関係が良好に継続しているよう支援している。		

【千葉県】ゆりの木苑 グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロア担当者による四季を感じられるような掲示物の作成や、環境整備係を設け、不具合の改善に努めている。また、少しずつではあるが、ピープについての研修を受ける機会を設けるなどして環境整備・空間づくりに励んでいる。	施設は平屋建てで、館内はバリアフリー環境となっており、十分な介助スペースが確保される等、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。また、共有スペースは明るく開放的な雰囲気作りがなされており、ソファやテーブルも設置され、入居者一人ひとりがくつろげる環境となっている。他にも、季節感を感じる飾り付けを施し、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時のご利用者の状況に合わせて、座席やフロア一席の変更をご利用者と共に行ったり、必要時は談話室の利用なども検討している。また、いつでも自室でプライベートの時間を過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、持ち込み頂き、環境を整えると共に、必要時はご家族にも相談しながら居室内がご本人にとって居心地のいい環境となるよう担当を中心に実施している。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。全室畳敷きとなっているものの、ベットを使用する事も可能となっており、生活歴に配慮した居室作りが行われている。また、鍵・収納が設置されており、プライバシーの確保がなされていると共に、洗面台・エアコンが設置されており、利便性があり、快適な生活に配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物品の設置場所などに配慮し、動線や空間の確保に努めている。また、居室内を含め、できることを活かし継続していけることのできるような環境づくりを目指している。		